



開府890年を記念して
千葉市が作成したマンガ「千葉常胤公ものがたり」

千葉市

親の官職名であり、彼女らの実名はいまだに分らない。これは実名が霊的な力を持ち、軽々



「房総」千葉介 常胤を生んだ地 ⑤

常胤さん日常③言葉と名前…その意味

「義経様お逃げください」と弁慶が言う……これはドラマの中でのお話。実際にこれをやると、最悪の場合、弁慶は一本刀あびる羽目になる。
鎌倉時代の第一級史料「吾妻鏡」の中に「頼朝の文字は無い。武衛・二位・二品・右大將家などであり、これらは主に文書上の呼び名で、日常的な呼び名は他にあってややこしい。佐殿とか鎌倉殿である。佐というのは官職名で今日の会社で言えば部長レベル。大河ドラマでは御家人たちがしきりに「すけどの」と呼んでいたが、あれは「ぶちよう」と呼んでいるわけで、御家人が「頼朝様」と呼ぶことは決してなかった。「鎌倉殿」は武家の棟梁となった頼朝と、それ以後の将軍に対する尊称である。



多賀譲治 プロフィール

多賀歴史研究所代表・元玉川大学教育博物館研究員。フィールドワークを重視した歴史研究を続け、NHKをはじめとした歴史番組の時代考証、新聞への連載、講演会などの活動を行っている。玉川大学・学園に設置された「鎌倉時代の勉強しよう」は鎌倉時代のWEB学習ページとして国内最大のもので、学校教育に限らず鎌倉時代に興味ある人にとって役立っている。著書に「知るほど楽しい鎌倉時代」（理工図書）などがある。

「授かる名前である。したがって諱でその人物を呼べるのは親か目上の人だけということになり、主君に対して諱を使うことは極めて無礼なこととされた。」

立場で呼称が変わる 封建時代

貴族や武士は成長や昇進、あるいは勲功によって名前が変わった。通常は鬼武者（頼朝）・牛若（義経）のような幼名からスタートする。それ以外に太郎・二郎・三郎のように出生の順を表す名（仮名）も用いられた。通常、千葉介常胤さんの名は平朝臣千葉常胤ということになる。平は氏、朝臣は姓。千葉は領地の苗、常胤は諱である。苗と諱のあいだに仮名が入る場合が多いのだが、常胤さんの場合はこれが不明である。更に、当時は形だけの朝臣と通称（苗）の千葉を除くと平常胤となり、これが常胤さんの正式な名である。これ以外に官位や官職名も使われたので「介」が入るとおなじみの名前になる。介とは律令制下の地方官で、序列は守の次である。現代風に言えば副知事ということになるが、鎌倉に武士政権が出来るまで下総では実質的なトップとなった。地方の豪族達が一族の結束を強めるため名家の血筋を求めたことや、権門勢家の庇護を受けるために領地を寄進したことは連載のはじめに書いたが、同様に国司の役人となり官位や官職を受けることも彼らにとつての重要事項だった。地方における縦の秩序関係を維持すること

発音も単語も異なる 鎌倉人

話は続く。読者がタイムスリップして千葉の館前で「千葉介常胤様にお会いしたい」などと言えないことは既にお分かりただけだと思うが、実はその前に言葉が通じない。正確に伝えたいなら「ていんばのすくえとうねてやね」で、これでパツサリである。当時と現代とは発音が異なるのだ。例えば鎌倉時代にはHの発音はない。Fである。つまり、上総介広常は「ふいろとうね」であり平家は「ふえいけ」であって、鼻は「ふあな」なのだ。現代フランス人がホンダとか日立を「オンダ」「イタチ」としか言えないのと同じである。他にも「ぎ・ぐ・げ・こ」は「ぐあ・ぐい・ぐう・ぐえ・ぐお」「たち・つ・て・と」は「てや・てい・てゆ・てえ」とう・もしくは「てよ」「お」は「を」で発音していたことが分かっている。濁音は鼻濁音になるので「ば」は「ba」で発音された。これは頭蓋骨と口腔の形が発音に影響するからである。私たち現代日本人の頭は真上から見るとほぼ円形の短頭が多いが、鎌倉時代の人の頭

に名乗ってはならないという思想的な風習による。誰でも知っている北条政子の政子は、従三位に叙された際に父時政の名前から一字をとってつけられた諱であり、それ以前の名前、つまり実名は不明である。常胤夫人の円寿院殿も本名は分からない。記録には秩父太郎重弘中女とあるだけである。実生活の中で二人はどうか？ 知りたいところである。